

FOCUS

追いかける。大学生。

宇宙学生団体 Noti's

宇宙産業シンポジウム

宇宙学生団体Noti's(ノーティス)は6月24日「宇宙産業シンポジウム」と題し、キャンパスプラザ京都(京都市・下京区)で、宇宙産業に関わりのある教授を含む5人によるシンポジウムを開催した。会場には学生を中心に80人以上が訪れ、遠く宇宙の話に耳を傾け、自身の意見をみんなに伝えた。



宇宙学生団体Noti'sは今年3月に、現代表の島田英裕さん(立命・3年)の呼びかけで結成された、できてまだ間もない学生団体だ。日本の宇宙市場が小さくなってきている中で、宇宙について、一人でも多くの人に知ってもらい、行動してもらおう

活動している。立命館大、同志社女子大などの8人の学生が中心となって始まったこの団体は、現在新たなメンバーも加わった。普段は大学コンソーシアム京都を拠点に、様々なプロジェクト単位に分かれて活動を行っているという。そんな宇宙学生団体Noti's

「ありそう、あってほしい」宇宙開発の未来

i'sが開催した「宇宙産業シンポジウム」には、80人以上の参加者が来場。30人規模のイベントは主催経験があったが、この規模での開催は初めてだったという。結成わずか3カ月、部員わずか10人足らずで1つの催しに仕上げた。

シンポジウムは午前10時から午後6時までで2部構成となっており、宇宙産業で活躍する5人の、それぞれテーマの違った講演が行われた。そして、午前の部の最後にワークショップが、午後の部の最後には、講演者によるパネルディスカッションの時間が設けられ、参加者が飽きないような工夫が随所に盛り込まれた。

ワークショップのテーマは「『ありそう・あってほしい』宇宙開発の未来」を考えたというもの。コスト面や政策などの現実的な障害を考えると、5人程度のグループに分かれた参加者たちは、童心に帰って未来の人間と宇宙の関係について話し合った。「銀河鉄道を建設して、簡単に火星に行きたいな」「絶対零度の星に、いつかは人間が降り立てるシステムを考えたい」。用意された考えをまとめるための画用紙は、みる

みるうちに夢で埋められてゆく。ワークショップ後にはそれぞれのアイデア発表が行われ、参加者は静かに耳を傾けた。あるグループは、将来宇宙がより身近になるという考えを具体例を上げて披露。聞き手側は「なるほど」「夢があるなあ」と感心の声を上げた。

また、講演者の言葉にも、参加者は時折大きな笑い声をあげた。講演者の一人、麻布大経済環境研究室教授のバトリック・コリンズ氏は、ビジネスの面から考えた宇宙の姿を提唱し、SFにあるような世界が近未来で実現可能であることを話した。

イベント終了後、代表の島田さんは「初めてのイベント運営だったので至らないところも多々あったと思う」と控えめに話した。その一方で、「参加者の方が積極的に発言してくれたので、場内が盛り上がった。感謝しています」と、反応から手応えを感じたようだった。また、参加者の男性は「今までSF世界の作り話だと感じていたことが、もう現代の技術によって実現しつつあることを知り、感動しました」と満足そうに話した。(聞き手=比嘉智也・片山孝章)

UNN関西学生報道連盟

FOCUSは

神戸大学ニュースネット委員会
同志社大学 PRESS 編集部
NEWS 立命通信社
関学新月通信社
大阪大学 POST 編集部

関西大学タイムス編集部
神戸女学院大学 K.C.Press 編集部
京都女子大学藤花通信編集部
京都大学 EXPRESS 編集部

の共同編集による週刊フリーペーパーです

配信・発行 (C) UNN 関西学生報道連盟 (公式HP) <http://www.unn-news.com/>

共同編集室 〒532-0011 大阪府淀川区西中島4-2-24 ダイニホンビル4F

(TEL) 06-6307-1315 (FAX) 06-6829-6353 (MAIL) info@unn-news.com